

調査団体名	森のなりわい研究所	団体代表者名	伊藤栄一
設立年	2004年	団体URL	http://morinari.com/
活動地域	下呂市	調査員	小野、杉野
取材日	2009/12/14	レポート作成者	小野佳英子、杉野賢治

## 「森を活かし、森に育まれる『暮らし・地域づくり』を目指して

### <活動内容>

- |                                    |                         |
|------------------------------------|-------------------------|
| 1) 森林環境学習の企画・運営・支援「やまん塾」           | 2) CSRコンサルティング          |
| 3) 野生動植物の調査                        | 4) 森林・緑地の多目的空間化         |
| 5) 景観デザインの設計・提案・施工の開発              | 6) 森林健康法に関わる環境設計及びプログラム |
| 7) フォレストウォッチング等エデュケーショナルツアーの企画運営請負 | 8) 林業経営に関わるコンサルティング及び施業 |
| 9) CN環伐の普及促進活動                     | 10) 森林関連産業に関する調査・研究     |
| 11) 森林資源利用手法の開発及び生産販売              | 12) 森林づくり活動の支援          |
| 13) 森林に関わる広報普及活動                   |                         |

森林環境学習に関する活動が活動の柱となっている。

### <会のモットー(何を大切にしているか)>

森を活かし、森に育まれる「暮らし・地域づくり」を目指して、調査・研究ならびに諸活動の企画・運営・支援・提案を行う。調査研究を行う研究所部門、森林関連事業部門「グリーンウオリアーズ(GW事業部)」、活動支援部門「森と暮らしを結ぶ活動支援集団・かしっぱ隊」で構成されている。

### <設立から現在に至るまでに変化したこと>

森に関心を持つ人が増えた。少しずつだが、確実に山のことを心配しつつ、何かをしようと思う人が増えている。ただ、森を森として捉える人は増えたが、森を資源として捉える人は少ないと感じる。

### <連携している団体・専門家・自治体など>

岐阜県、下呂市、岐阜大学、岐阜県立森林文化アカデミー、あいち生協

### <今までに行った調査・研究>

野生動植物の調査、森林関連産業(森林セラピー、グリーンツーリズム等)に関する調査研究等。  
2008年度は計17の調査を実施。

### <現在直面している課題>

森林ガイドや木材を活用した商品の開発などを手がけているが、十分な対価が得られないことが多い。業務量に見合うだけの売り上げが上がらない。

### <今後やってみたいこと>

○補助金頼りの部分は否定できないが、悪いことではない。売れるモノをつくり出す工夫と、山で生きていくんだという気概を分かち合って協働することが大切であり、成功モデルをつくり、地域に渡していくことができればと考えている。  
○小さな成功を地域に戻すことが大切であり、一つの大きな成功に向かって何かを犠牲にするのではなく、日々の暮らしの中にある小さな成功や充実感を大切に育みたい。そういった活動が流域活動の原点になるのではないかと考える。森のなりわい研究所は、地域に住みながら地域に対して提案する「ローカルシンクタンク」を目指していきたい。  
○いろいろな人がいろいろなことに取り組むことで、いろいろな風景が生まれ、社会的な安全性をつくることができ、持続的な安全性を確保できると考えている。現在、林野庁「森林・林業再生プラン」を活用して間伐材を使った薪ストーブの利用促進に取り組んでいる。森林のオーナーとエンドユーザーをどうつなぐか、薪を通じて上流と下流の団体をつなぐことを考えている。薪ステーションのようなものをつくり、コミュニティー拠点を創出することに取り組んでいきたい。森林をベースとした評価尺度を小さな規模でつくり、小さなモデルをつくるのが重要だと考えている。

### <そのためにはどんな情報・人脈が必要か>

森林に関わる様々な価値観を持った人同士の議論が足りないと感じている。もっと議論する場が必要である。価値観をお互いを知る機会をつくっていく必要がある。

### <チームオリジナルの質問>

質問内容:	2010年、岐阜県で全国豊かな海づくり大会が行われるが、イベントを契機に何か期待していることはあるか。
答え:	全国豊かな海づくり大会の実行委員になっている。海づくり大会を契機にネットワークができればと思う。ただ、イベントが行われるたびに新たな組織ができるので、整理は必要だと思う。

### <その他、伝えたいこと>

伊藤栄一氏は多くの肩書きを持つ方である。温厚で聡明な雰囲気は相手を安心させる魅力のある人。

ちなみに、伊藤氏の肩書きは、

①「NPO法人 森と水辺の技術研究所」理事 ②「NPO法人 龍の瞳倶楽部」理事 ③「NPO法人 森林真剣隊」顧問 ④「安心・安全住まいづくりの会」代表 ⑤可児市都市計画・景観・まちづくり審議会委員、景観アドバイザー ⑥岐阜市年景観審議会委員、景観・まちづくり・自然環境アドバイザー ⑦岐阜県木の国山の国県民会議委員・普及教育部会長 ⑧岐阜県能力開花支援事業登録講師 ⑨下呂市景観審議会会長・景観アドバイザー・森林環境学習コーディネーター ⑩「ひだの未来の森づくりネットワーク」代表幹事 ⑪「益田の森と川を育む会」代表 ⑫手配りミニコミ誌「ましたむら」編集委員 ⑬「南ひだ健康道場」講師・森の案内人

全てが森に直結し、生業となる可能性を秘めた事業であり、地に足が着いている印象だった。伊藤氏自身も山村に暮らし、自分自身を発信することで共感を得ている。伊藤氏に賛同する市民は多く、若い人たちからも絶大な信頼をされている。

伊藤氏自身は、「木を伐って使っていく」ことをもっと広く呼びかけていきたいと考えている。日本は適正な手入れが行われていないために、森林の蓄積が増加しており、環境要素だけでなく資源としてのニーズをつくっていくことが大切であると考えている。



対面調査の様子



民家を活用した活動拠点



薪ストーブ



活動拠点内部

